

平成30年度第1回曾於保健医療圏地域医療構想調整会議開催結果

日時：平成30年7月26日（木）18:00～19:45

場所：曾於医師会立病院 講義室

出席者：委員（13名（代理3名を含む））、関係者3名、傍聴者8名、事務局6名

【議事事項】

1 報告及び説明事項

- (1) 医療関係者専門部会開催報告
- (2) 平成29年度病床機能報告集計結果（速報値）
- (3) 地域医療介護総合確保基金

2 協議事項

- (1) 今年度の調整会議の進め方
- (2) 病院の開設等に対し調整会議への出席を求める際の基準
- (3) 1年以上の非稼働病棟を有する医療機関

3 その他

【主な意見等】

1 報告及び説明事項

- (1) 医療関係者専門部会開催報告
- (2) 平成29年度病床機能報告集計結果（速報値）
- (3) 地域医療介護総合確保基金

- ・曾於保健医療圏では、地域医療構想の病床数が県全体と比べて急性期は少なく回復期が多くなっているが、これは高度急性期と急性期を医療機関所在地ベースで算出しているためであり、現在、急性期の患者が圏域外に流出しているということを反映しており、患者が圏域内に帰ってくると回復期が必要になるということを示している。現状をどう埋めていくのか、行政も含めて考えていく必要がある。
- ・地域医療構想における高度急性期の病床数については、現在、曾於保健医療圏で高度急性期相当の医療を行っていることを示しており、高度急性期の病床はなくても急性期で対応できているという判断もできるのではないかと。
- ・調整会議で最も大事なところはビジョンを出していくことである。2025年にこういう医療を持ちたいというものがないといけない。曾於医師会立病院が急性期の拠点となってやっていくなれば、予算と人材を集めないといけない。
- ・医療機関を越えて集団で医療を行うというような特別な医療特区のようなシステムについて勉強していくことは価値がある。

2 協議事項

- (1) 今年度の調整会議の進め方
- (2) 病院の開設等に対し調整会議への出席を求める際の基準

各調整会議において地域の実情に合わせて設定する病床数は、100床とし、何かあった場合は別途協議することとする。

- (3) 1年以上の非稼働病棟を有する医療機関

曾於医師会立病院及び曾於医師会立有明病院が非稼働の理由及び今後の見通しに関する計画について説明。

- ・地域医療構想の病床数である急性期125床は、過小な数値であると考えられる。医師や看護師の確保ができれば、圏域内で対応できる。ビジョンを出して、行政も含めて一緒に考えていかなければならぬのではないかと。